

宇宙航空研究開発機構(JAXA)、千葉県流山市、温暖化防止ながれやまは2日、「宇宙からみた地球の今・第106回JAXAタウンミーティングin流山」を流山市生涯学習センターで開催した。悪天候にも関わらず200人弱の参加者があった。大半が小学生で、女子児童の割合も高かった。

小学生から質問多数 宇宙開発に高い関心



人工衛星や国際宇宙ステーション計画に関する質問が多数寄せられたJAXAタウンミーティング

衛星「しづく」の開発・運用に携わる伊藤徳政・第一衛星利用ミッション本部衛星利用推進センター・ミッションマネージャが登壇。小学生が多く組みから丁寧に説明。先日打ち上がった「GPM主衛星」についてや、「しづく」が降水量、水蒸気量などを観測して、気候変動の研究や気象予測に役立ち、漁業等へも応用されることを紹介した。会場からは、人工衛星の数や部品数、人工衛星同士がぶつかることがあるなど、人工衛

星自体に関する質問が数多く寄せられた。3年前に運用が終了した「だいち」が大気圏から落下していく時期はいつ頃になるのか、宇宙ゴミの対策はどうなっているのかなど、宇宙の環境問題でもあるデブリに关心を持つ参加者もいた。

このタウンミーティングは、JAXAの登壇者、参加者が双方でコミュニケーションして、JAXAが取り組む研究開発に対する理解を深めてもらい、将来的宇宙開発や宇宙科学・航空技術開発につながるアイデアや方針を生み出す場として2004年からスタートした。

陸域観測技術衛星「だいち」、第一期水循環変動観測

国際宇宙ステーション計画(ISS)に長年携わる山口孝夫・有人宇宙ミッション本

千葉県流山市でJAXAタウンミーティング

必死にメモを取る児童や、引率の親に難しい言葉を解説してもらひながら話に聞き入る児童など多くいた。数時間のイベントだが、研究のアピールを地道に続けることは、研究活動が社会の理解を得る上では重要

だ。比較的知名度の高いJAXAでも、いまもこの活動を続けている。公的な資金で研究をしている機関は、このような地道な活動を通じて研究成果のアピールをしていくべきではないだろうか。

部宇宙環境利用センター計画マネージャは、今月9日からISSの船長になった若田光一宇宙飛行士が行う宇宙実験を解説した。若田飛行士自身が被験者となり、シフトワー

カーの労働環境改善に応用するため2日間心臓の動きを計測する実験が行われることや、食品の冷凍技術向上に役立つ凍らないタンパク質の結晶を無重力下で構築して詳細に構造を調べる実験を紹介した。会場からは、なぜ宇宙では骨がもろくなるのか、船長になるための資格はあるのか、地上に帰還した宇宙飛行士が普通の生活に戻れる期間はどのくらいなのか等の質問があつた。